

# 地域生活支援拠点づくり

高水福祉会 常務理事  
野口直樹

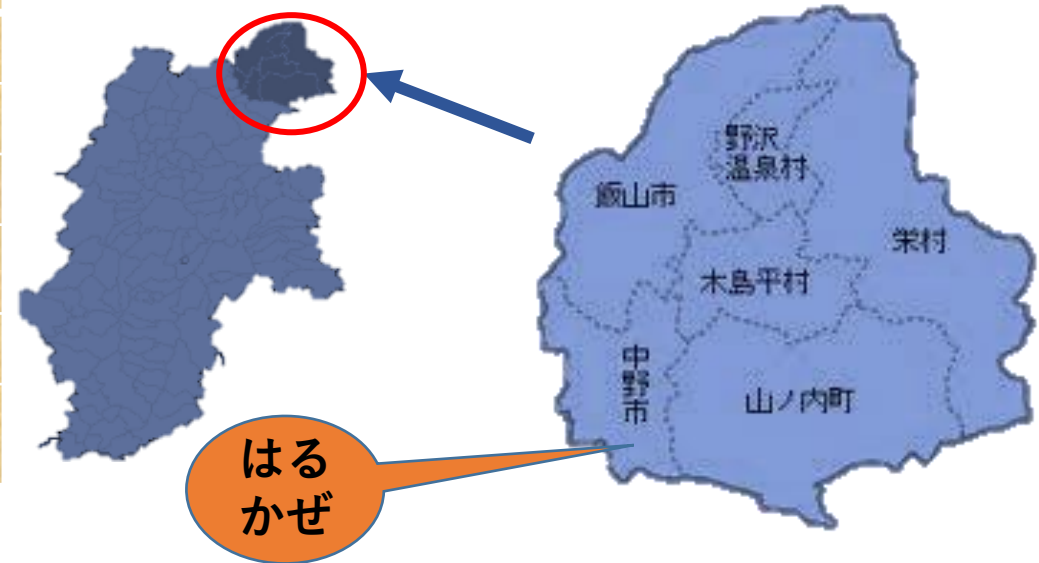
- 北信圏域の概要
- 拠点づくりの経緯
- 拠点機能の発端となった考え
- 拠点整備効果のインディケータ―（指標）
- まとめ

# 北信圏域の概要 (長野県北部 2市 1町 3村)

圏域総人口	88,467人
圏域の障がい者の人数	
身体障がい者・児	4,437人
知的障がい者・児	850人
重症心身障がい者・児	59人
精神障がい者・児	758人
手帳保持者 計	<b>6,104人</b>

※上記の内障がい福祉サービスを利用（必要と）  
されている方（サービス等利用計画書保持者）

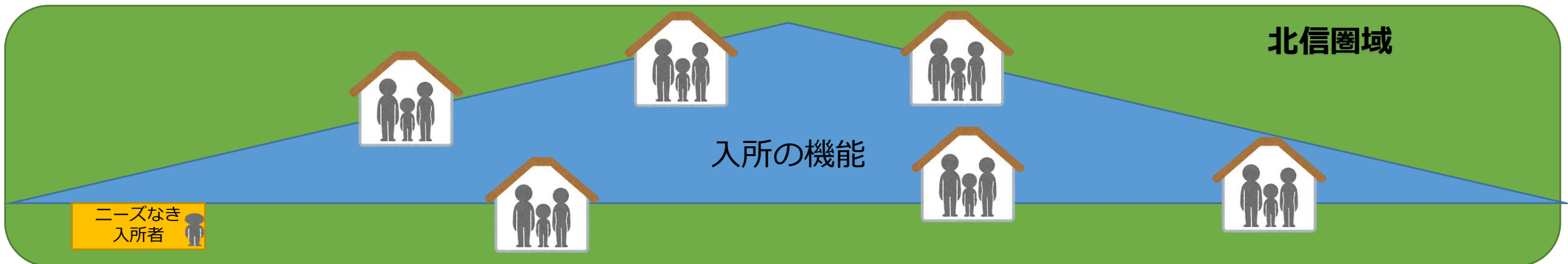
圏域全体	<b>720人</b>
※居住サービスを利用されている方	
共同生活援助	111人
	188人
施設入所	77人



障がい福祉サービスを利用  
(必要と) されている方で在宅  
障がい者の数は **532名**

## 入所施設の24h365日の機能

- ・途切れなく支援者職員が常に常駐し、巡回、定時介助、緊急支援を行う。
- ・常に灯りを灯し、雨風を凌げ、衣食住を提供できる建物（居室）がある。
- ・これを求めて意思なき入所が促進される。
- ・この機能を北信圏域全体に行き届けることで意思なき入所を防ぐ。



○「地域生活支援拠点」は機能しているか？

日中・居宅事業所等の支援力の向上と入所施設の画一的生活の改善

- ・入所者減（入所者のQOL向上）
- ・在宅での安心感増（ケア会議等での反応で評価）

暮らしたい場所で暮らし続けることを選ぶことができる

- ・入所選択減⇨結果定員減で入所者QOL向上⇨暮らしの選択肢となる
- ・グループホーム増
- ・緊急出動の減（在宅生活の安心生活の継続）
- ・緊急ショートステイの減（在宅生活の安心生活の継続）

上記インディケータの推移によって機能の有効性（成果）を図る。

# まとめとして

○サービス提供事業所の24h365日の生活意識

○意思決定支援の重要性

○ソーシャルアクションと自立支援協議会

○障がいの理解（特に強度行動障害の理解）

があれば態々「拠点」なんて整備しなくてよいと思います。逆に言えばこれをしっかり行うことが「拠点」なのでしょう。

ご清聴ありがとうございました